

149

長期對戰と

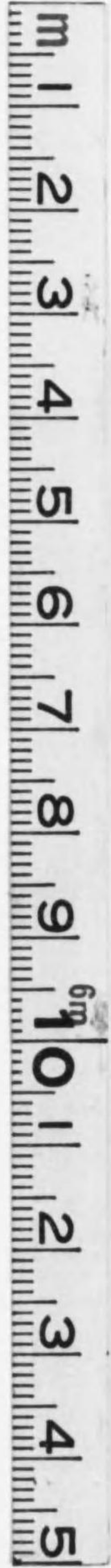
實業市民の覺悟

特253

665

東京實業愛
市協會會長

築田欽次郎



始



特 253
665



東京實業愛市協會長 築田欽次郎著

長期對戰と實業市民の覺悟

東京實業愛市協會



長期對戰と實業市民の覺悟 目次

一、武力戰より外交戰へ……………	一
二、英露の暗躍……………	五
三、長期戰爭の用意……………	一〇
四、財政經濟はごうなる……………	一七
五、軍費を作り出すもの……………	二三
六、資金使用の制限……………	二九
七、物に對する制限……………	三三
八、盲目的消費節約を排す……………	四一
九、「金」保有の問題……………	四四
一〇、景氣の變動に備へよ……………	五一
一一、經濟恐慌に苦んだ經驗……………	五二
一二、實業市民各位に告ぐ……………	六〇

長期對戰と實業市民の覺悟

築田 欽次郎

一、武力戰より外交戰へ

日支事變は、我忠勇なる將兵の果敢な力戰奮闘によつて、連戰連捷、今や破竹の勢ひを以て前進に前進を續けて居ることは、皆様御承知の通りであります。上海方面に於て、北支方面に於て、又内蒙方面に於て、敵が豪語して難攻不落と誇つて居つた金城鐵壁も、我決死の突撃によつて、こつばみぢんに粉碎せられ、遂に我方は壓倒的大勝利を得たのであります。文字通り皇軍の向ふところ敵なく、我が武威は今や全世界に昂揚せられつゝ、

あるのであります。この壯烈痛快なる大戦捷——大飛躍に對し、吾々は何と申してよろしいか、歡び極つてたゞ感泣するの外ないのであります。これ偏に上御一人の御稜威の絶大なる御力によるのでありまして、今更ながら我尊嚴なる國體の有難さと、御聖徳の宏大なるのに感激せずには居られないのであります。又これと同時に、一死報國の熱誠に燃ゆる我皇軍の將校並に兵士諸君の忠烈無比の奮戦に對し、深甚なる感謝の意を捧げなければならぬと共に、その崇高なる犠牲的大精神に對し、自らなる尊敬の念が吾々の心の中から湧き出て感奮せずには居られないのであります。この連戦連捷の大勝利は最早決定的であります。これに對し如何に頑迷な如何に狡猾な蔣介石と雖も、最早到底敵することの出来ないのを悟り、普通ならば彼れは城下の盟ひを爲し、我軍門に和議を乞ふて來るのが定石

であるのであります。然るに現在の支那は、この當然過ぎる程當然の定石を打つて來ないのであります。自分の首に殆ど劍を突き付けられて居りながら、猶傲岸にも執拗にも抵抗を續け、決して降参して參らぬのであります。これは蔣介石に勝算の自信があつてのことかと申しますと、そうではない、彼は初めから、ある國、ある國の力を頼んで、その援助によつて日本には負けない、寧ろこれを屈服させて見せると云ふ、愚なる他力本願の考へを持つて居つたのであります。即ち彼れの背後には英國の如きロシアの如きものが居つて、常に自分達の、ある目的を達せんが爲めに、裏面に於て彼を操り、彼を躍らせ、精神的に物質的に支那を援助するの態度を執つて居つたのであります。彼れ蔣介石はこれらの機微、これらの動きを看取り、所謂支那一流の外交術たる、夷を以て夷を制するの權謀術數を巧

那を援けよと云ふことは、これは日本に對し取りも直さず敵對することを意味するのであります。ロンドン・タイムスは御承知の如く英國に於てどの内閣のときでも、時の政府の外交政策を大體に於て支持することを傳統とする大新聞であります。この新聞が支那を援けよと云ふ社説をまつころから掲げてゐると云ふことは、英國の大體の態度が窺はれるのである。勿論英國内には日本に對し好意を有するものも相當ありますが、英國政府の爲す所は——特に支那の出先に於ける英國官憲の行動の如き、支那に對し友好的であるに拘らず、日本側に對しては極めて非友誼的であります。英國の腹は略々判つて居ります。蔣介石がこれに依存しこれを頼みとし、これに相通ずるものであることは明々白々の事實であると云ふことを、吾々は心に深く銘記せねばなりません。

次にロシヤは如何なる態度を採つて居りますか。ロシヤの支那に於ける共產化運動——共産軍と支那國民軍の握手、並に共産黨の地下運動が着々進行して居ることは今日周知の事實であり、ロシヤの支那援助は近年根深くはいり込んで居るのでありますが、飛行機を始めとし軍需品の配給の如きだん／＼その數を増さんとしてゐるのであります。ロシヤは御承知の如くその國內に重大事件が起つて居つて、極東に對し今直に積極的に仕掛ける譯にいかない内部的事情もあつて、我國に對し戰鬪的行爲に出づる氣配は見へないものゝ如くであります。が、支那を援助し支那を共產化し、支那を自分の勢力中のものとし、適當の時機——即ち日本が弱つたとき、日本の兵力なり經濟力なりが減少して、國力衰退の時をまつて、支那と力を合せて一舉我れを突こう、所謂人のよわみに付け込んで侵入しようとする。

——恰も吾々の身體に於て、抵抗力が弱ると、いろんな微菌が直ちに侵入して来て、病魔が猛烈に我身體を冒し命まで取ると同じ理屈で、彼れは我を屈服せしめようと云ふ戰略を取つて居るものと見て置かねばならないのであります。實に油斷もすきもない、全く危機に直面して居るものと思はねばなりません。彼れ蔣介石は即ちかうしたロシヤの腹も知り、これと氣脈相通じて我に當ると云ふ考へを持つて居ると云ふことは、最早疑ふべからざる事實となつて居るのであります。蔣介石はまだこの外に他の外國——どの國でも何とか彼とか理屈を付けて日本を惡ざまに非難し、支那に好意を寄せ援助する國を拵へようと大童になつて居ります。九ヶ國會議の如き主として英米の合作に依つてあれまでに持つて來たのであります。支那はこれを大に動かして、その力で日本を抑へようと思はりました。英國は

初めから米國を誘ふて英米共同で支那を援け日本に當らせようとする腹が
ありましたが、米國政府は必ずしも英國の云ふ通りにはならない。米國に
も支那に同情を寄する者が多く居りますが、平和論者が澤山居り、戦争に
捲き込まれることは眞平御免だと云ふ論者が相當に多い。又日本と事を構
へることは米國の經濟的利益を非常に害すると云ふので、眞の中立態度を
欲する者も少くない。かうした複雑せる事情から米國は英國の尻馬には中
々乗らないのであります。英國の外交は中々執拗であり、老獪であり、
一筋縄ではない、云はゞ海山千年の古狸であります。何かすきがあれば米
國を引きずり出して共同動作に出ようとして居るのであります。實に油斷
もすきもあつたものではない。支那は支那でこの状態を能く承知してあら
ゆる陰險手段を弄し、あの手此の手と手を換へ品を換へて、列國をくどき

落さうと必死の運動を續けて居るのであります。こうした英、蘇等の動きに躍る支那政府でありますから、あの大敗北を爲して命且夕に迫つて居るにも拘らず、依然として豪語を續け、飽くまで日本に抵抗し、遂に日本を屈服させねば止まぬと大きな熱を吹いて居るのであります。

三、長期戦争の用意

目下の状勢は實に右の如き有様であります。我國は敢て事を好んで戦争を長引かしたくはない。一日も早く平和の局を結び、支那と相提携して將來長く共榮の實を擧げたいのが我國の熱望する念願であります。奈何せん、彼等が今に至るも何等反省する所なく、長期抵抗をして來ると云ふのであるならば、我國もまたこれに長期抵抗するの覺悟を以て、彼れに當り

彼が最後逃ぐるに道なく、崩壊して愈々降参したと云ふ所まで追ひ詰めねばならぬ。これに對し要らざる邪魔をする第三國があつたならば、その國々へも氣の毒ながら實力行使を爲さねばならぬかも知れない。我國から特にこれを仕掛けるのではないが、我國が今日まで實に陰忍に陰忍を重ねて來て居るにも拘らず、尙彼れ第三國が不法にも支那を援け、我に對し敵對的行爲に出づる以上は我國がそれでも陰忍すると云ふことは、最早我國民の自尊心の上からも我慢することは絶対に出來なくなるのであります。縱令如何なる艱苦欠乏に遇ふとも、吾々はこれを忍びこれに打ち克つて最後の目的貫徹にまで邁進せねばならぬのであります。即ち今日に於きましては、何んとしても我國は長期戦争の覺悟を致さなければならぬのであります。まして、我皇軍が連戰連捷し、上海も占領し、北支那も片付いたからと云

つて、もう戦争は済んだなどと云ふ考へ方は、絶対に致してはならぬのであります。先日畏くも 天皇陛下より戦地の將兵に下し賜はつた勅語を拜讀致しますに、軍の將兵に對しては其忠烈をおほめ下され、戦死した勇士に對しては「寔ニ仲怛に堪へス」と云ふ眞に有難い御思召を下し賜ひ、其次に「惟フニ派兵ノ目的ヲ達シ東洋長久ノ平和ヲ確立センコト前途尙遠ナリ」と仰せられて、居るのであります。即ち時局の前途は尙遠であるぞ、油断してはならぬぞ。「益々志氣ヲ淬厲シ艱難ヲ克服シ以テ朕ノ信倚ニ副ハムコトヲ期セヨ」と仰せられて、今後一段の奮闘を望ませられて居るのであります。この御勅語は軍の將兵に下し賜はつたものでありますけれども、又吾々國民一般に對する 御聖慮の御發露とも拜察し奉るべきものと、恐れ多くも私は考へるのであります。こゝに於て吾々はいよいよ今

度の戦ひは「これからだ」、これからがほんとうの戦ひに這入るのだと云ふ、この時局の認識をはつきりと頭の中に刻み込み、心の底にその覺悟をぐつと締め付けて置く、これが極めて肝要なことだと思ふのであります。私はこのことを皆様方に特に聲を大きくしてお訴へ申し、能くこれを諒解せられ、これを肝に銘して置いて戴きたいと思ふのであります。即ち戦局が進展し、今日の如き事態となりまして、何が最も大切であり、何が最も必要であるかと申しますと、元より北支に、上海に、内蒙に命を捨て、あの苦戦奮闘を續けて居る我忠誠義烈の將兵勇士に更に一層の奮戦力闘をお願いすることが何よりも大切であり必要であります。これと同時に、内にある所の吾々國民、即ち内にあつてそれ々の仕事に従事して居る所の吾々國民全體が、自分自身も矢張り戦争をやつて居るのだ、たゞ受持ち

の地域なり、仕事なりが違つて居るだけで、戦さの任務の一部面を擔當して居るのだと云ふことを能く認識し、日常の仕事の上に、奉仕の上に、各その分に應じて、智力なり能力なり、また勞力なり財力なりを、次から次へと十二分に働かせたり、提供したりして、その國內任務を忠實熱心に遂行すると云ふことが極めて必要であり、大切であると思ふのであります。出征の將兵をして何等後顧の憂ひなからしむることに、あらゆる手段を盡しますことは勿論、國內の國民全體が能く一致協力して、戦ひの最後の目的を貫徹するまでは、どんなことがあらうとも、驚きもしない、恐れもしない、騒ぎもしない、憂ひもしない、痛みもしない、不平も持たないと云つた、極めて靜かに平かに常時と變らぬ落付きを持つて何事にも當ると云ふ心構へが必要であり、大切であると思ひます。それに就いては國民一般

に剛健なる精神を振ひ起して——言葉を換へれば大勇猛心を振ひ起して、たゞく一意専心、この吾々の祖國日本が今、危急存亡の秋に直面して居るのだ、吾々國民銘々の心の持ち方、働き方一つで、この祖國日本が大いに興隆し、大飛躍、大發展を爲すか爲さぬかの岐れ目となるのだと云ふことを深く認識し、この時だ、忠義のまごころを捧げるのはこの時だ、自分が生を享け今日あるに至つたところのこの大恩——恐れ多くも陛下並にこの我國體があつてこそ、こゝにこれだけの成長をし得たるこの御恩、この國家及社會があつてこそ、こゝにこれだけの成長をし得たるこの御恩——かうした大恩あることを想ひ起し、この大恩に報ひ奉るのはこの時だ、これが自分の最高の道徳であり最高の名譽であると云ふことを、じつくりと考へて、心に刻み込み、そうして日々の仕事を始め日常生活一切に對し、こ

の心構へて以て戰時體制の線に沿ふて積極的に邁進することが肝要だと思ひます。何等疑ふ所なく、何等逡巡する所なく、不動の信念を持つて時局に對處して行くと云ふこと、これが非常に必要であり、大切であり、又最も有効であると思ふ。國民各位が、かうした方向に向つて、ぐんぐん進んで時局對策を實行するならば、それこそ戰地にあつて奮闘する所の將兵勇士は實に勇氣益々加はり、その突進力は幾層倍すること、必然であるのであります。吾々は、どうか、かうした國內の一切の力を一致團結して強いものにし、これをどこまでも續ける。彼れが好んで長期抵抗をやると云ふのであるから、我も亦之に對し益々剛健なる精神を振ひ起して、どこまでもどこまでも屈せず弛めず、堅忍持久、長期戰爭を續けて行くのである。我國民が剛健なる精神だに有して居るならば、彼等がどんなにやつたとこ

ろで、我はこれに對應していつて、必ず最後の目的貫徹が出来ると私は信じて疑ひませぬ。私はこの剛健なる精神を國民全體が堅く持つて居ると云ふことが、國民精神總動員の根本義だと思ふのであります。

四、財政經濟はどうなる

更に私は進んで論旨を擴め、皆様にお訴へ致しますことは、吾々國民がこの堅忍持久をするについての、吾々の心構へ、並にこれに伴ふところの種々の重大問題があるので、これについて御靜聽を煩はしたのであります。それは、この大戰爭に於ける財政、經濟の問題であります。今度の大戰爭を長く續けて行きますには莫大の軍費が入用であります。これは誰が出すか。國民が各々その分に應じ、財力に應じて出すので、大部分は公債

て、一部分は税金であります、それらが能く國民の負擔に堪へられるかどうか、そして戦時中は國民經濟即ち國民各自の營業、財産、收入、支出生活と云つた各種の私經濟に複雑した影響を與へ、相當大きな變動が起るので、果して國民生活が安定して行けるかどうかと云ふ問題が起るのであります。國民全體が堅忍持久するに當つて最も大きな問題は、この國民生活安定の問題であります。若し國民生活に安定性がないとなると、軍費の調達負擔の上に於ても堅實性を缺くことになり、全般の財政經濟の運営に支障を來すと云ふことが起らぬとも限らないのであります。實に大切な重要な問題でありまして戦局の上に重大關係を持つて來るのであります。彼蔣介石は何と云つて居りますか、蔣介石が最近外國記者團に豪語して申すには、一支那が尙抵抗を續くるに於ては日本の經濟財政は必ず破綻を生じ

て日本の國力は著しく低下し發動力を失ふに相違ない、最後の戦勝は必ず支那にあるのだ」と云つて居るのであります。これは獨り支那ばかりではあるまい、ロシアの如きもさう思つてその時こそと狙つて居る。その他にも狙つて居る國がある。日本の財政經濟は果してそんな弱いものか、長期戰爭をやれば忽ち破綻を生ずるやうな貧弱なものか、私はこゝに斷言致します。決してそんな弱いものではない、我財政經濟の力は必ずこれに堪へられる。日本の經濟力を疑ふものは、日本近年の大なる經濟發展を知らない者か、然らずんば日本の財力を殊更に過小に宣傳し、我にけちを付けんとする憎むべき者どもにだまされて居る人達であります。元來日本の財政經濟は長期の大戰爭に堪へられないと云ふ一種の悲觀説を唱へたものが、我國內に於ても前にあつた。しかし私はその當時もこの悲觀説は取るに足

らぬことを論じたことがある。實際今日は極端な悲觀説を唱ふる者はないたゞ長期の大戦争に堪へると云ふ人の中に多少程度の差があるのみであります。私は思ふ、我日本が、斯の如きの事態となり、舉國一致支那に當り國難を克服し最後の目的を貫徹せんとして居る場合、その軍費の調達が出来なくなるなどは絶対にないと考へる。戦時財政は、立派にやつて行ける、彼の長期抵抗に對應して最後まで續けて行けることを確信致して居ります。

一體戦費はいくらかゝるか、議會の議決になつて居るのは二十五億餘圓であるが、長期戦争となれば無論これでは足りない、私は今こゝに、戦費の詳細を述べる自由を得ませぬので、その二十五億圓は何ヶ月でなくなるかをこゝで申し兼ねますが、私の信ずる所を申せば、例へば來年もまだ戦

争ありとして假りに此上五拾億圓の軍費が入用だとして、その調達は別に困難でない。又其翌年にも入用の軍費を調達するに別に困難でないと思ふ。その次の年も又別段困難なことはないと思ふ。我國は軍費四百億圓位までは負擔が出来るとか、六百億圓までは出来るとか、さうは出来まいとか、いろいろこれについて申す人もありますが、四百億、六百億それら数字的根據があるのでてたらめてはないのであります。が、今からいくらまでは出来るとか、出来ないとかを議論する必要はない。世上一部には軍費は何んとも出来る、印刷機械さへあれば紙幣は直ぐ出来る、何も心配をするに及ばぬと申す人もあります。印刷機械あれば軍費が出来ると云ふは極端な言ひ方でありますが私は信ずる、戦争をやつて居るとき——特に勝ち戦さで、最後の大勝利を得られる確信のある時ならば、軍費はど

うにか作れるものである。印刷機械だけで出来るとは云はぬが、そんな風に比較的困難が少なく何んとか出来るものと信じてよろしい。即ち我國に於きましては、外國品の輸入、これさへ、さう巨額にならず、——輸出品の代金と我領土内及滿洲國で採れる産金額と、船の運賃等で得る外國收入金等の範圍内で輸入品を買ふと云ふ建前を執りまするならば——言ひ換へれば外國貿易上輸入超過が非常に多くして、日本銀行の有して居る金準備をどしどし外國へ現送すると云ふことにならない限りは、又新たな資金を一般に不急不要の事業には使はない。出来る丈軍用の方——軍費の方と軍需品を作る工業の方——に使ふと云ふ建前を執つて行くならば、又國民中贅澤をするものが多いと云ふことのない限りは、軍費は今申したように巨額のを長期に涉つて調達して行くことが出来るものと信じてよろしい

これは一口に云へば、政府が軍費で使つたお金が日本國民の懐ろに這入りそれが又税金となり、公債應募金となつて政府に納められ、それが又政府が軍費として使つて又それが國民の懐ろに這入り、又それが政府に納められると云つたやうに、政府と國民との間に幾度も幾度も繰返して、どうどう廻りをして行きさへすれば、相當長い間軍費の調達には差支ないのであります。

五、軍費を作り出すもの

國民が外國品を多く使用したりして外國へ金が出て行くと、それ丈資金が減るからそれは非常にいけない。又國民が今何も急がない。又なくともよいと云つたような事業に資本を投ずると、それは時局に關係ない方面に

資金が使はれて、軍費に向ふ資金がそれ丈減るから、それはいけない。又贅澤の方へ資金が使はれると、その方面へ資金が入つて軍費の方へ向ふ資金がそれだけ減る。それはいけない。が、さうでない限り、國內丈で軍の入用を中心にやつたり取つたりするのであるならば何も心配なく軍費は調達されて行くことが出来るのであります。——軍費の内、支那の戦地に若干の金は落ちますが、これは大した問題にならないやうに出来るのであります。——斯の如くに軍費の調達はさう困難なく出来るのである。然らばどうして、さううまく行けるのかと申しますと、それは我國の經濟力が近年著しく發達し、我國家國民の財力資力が大に増殖して居るからで、又財力資力を増殖し得る我國民の智識、技術、能力と云つたものが大に發達し物的人的の經濟原動力が進歩向上したからであります。我國の公有財産、

私有財産、我國の輸出額、我國人の海外に於ける事業收益、我國民の貯蓄金、預金、我國民の所得額等を見ますると、近年大に増加を致して居つて所謂我國の物的の經濟力が以前に比べて非常に大きなものになつて居ります。その上に日本人の教育向上と熟練とは大に進歩して居ります。この大きくなつた有形無形の經濟活動力を本として軍費が作り出されるのであつて初めに先づ既にあるところの富なり、貯蓄なりの中から十億圓なら十億圓と云ふ軍費を作つて支拂を致して置きますと、それが元金となつて前に申したやうに何回も轉回して大きな資金が作り出されることになるのであります。何も別段心配なく調達が出来るのであります。それ故に軍費の問題は決して憂ふる必要はない、安心して可なりである。

たゞ大に注意を要するは、今申した外國品の輸入を禁止制限すること、

資金を不急不要の事業に用ひないこと、贅澤をしないと云ふことこの三つを能く考へて置く必要があるのであります。外國品の輸入を禁止又は制限すること、これは何んとしてもやらねばなりません。今申したやうに外國へ金が出て行つては困るのでありますから、これが出ないやうにすることが必要であります。それには第一、輸出を殖やすこと、第二、金の産額を殖やすこと、第三、外國から金を儲けて來ること等々大に努力獎勵せねばなりません。一方にそれらを大にやつても尙日本銀行の金が多く外國へ出ると云ふ勘定になるなら外國品を買はないやうにしなければならぬのであります。たゞ外國品は買はずには居られない場合があるので、これを除いて置かねばならぬ。それは日本で出來ない品物で絶対我國に必要な物である。その第一は我國が外國へ賣る品物即ち輸出品中の或る物を製造する

ために必要な原料品、材料品である。その第二は戦争に使用する品物即ち軍需品中でその品を製造するために必要な原料品、材料品である。その第三は輸出品、軍需品を製造するために必要な施設の新設、擴張——機械とか器材とか云ふやうな品物の中で何んとしても外國品でなければならぬ品物である。この外に絶対必要の品が多少ありますが——大體かうした物を除く外は外國品はなるたけ買はないと云ふ建前を執つて、外國品の輸入を禁じたり制限したりして統制して行くことが必要であります。でありますからこのことが能く實行され守られて行けば、日本銀行の準備金がどんく、外國へ出て行くと云ふことはないので、我國の財政經濟の基礎は依然として堅實を續けて行けるので、軍費調達がそれだけ圓滑に順調にやつて行けるのであります。次に資金——即ち資本金と思へばよいのでお金のことであ

りますが——この資金を使ふことについて、普通の場合即ち平時に於ては資金はそれだけの力のあるものは、自分の資金は勿論のこと、借りて來ても自由にこれを使つて新に事業を起し商賣を始め、又從來からあるこれらのものを擴張して行けるのであるが、戦争のために、それに制限を加へなければならぬ必要が起るのである。戦争のために政府は軍費が入用になり、民間でもこれに伴ふ必要な事業や商賣がどしどし殖へて來て、その方に澤山な資金が必要になつて來る。さうなると、どうしてもその必要なもの以外の、即ち不要不急の事業——戦争のため絶対に必要だと云ふのでもなし、又さう急いでやらねばならぬと云ふのでもなしと云つたような事業——に要する新たな資金はこれを制限して行かねばならぬのであります。

六、資金使用の制限

例へば、新規に會社を作るとか、從來の會社の増資をするとか、これらの會社が借入金（社債を含む）をするとか、その他一般に凡て大きな資金を使ふと云ふ場合にそれが不急不要の事業であれば制限されるので、小さな場合は全く自由にするが、大きな場合は不自由になる建前にしてあるのであります。この資金使用の制限があるので、軍費を調達するのに圓滑順調に、調達が出来ることになるのであります。次には贅澤をしないことでありませんが、國民一般がこの際何んとしても考へなければならぬことは我皇軍の將兵が戦地に於てあの悪戦苦闘を續け、あの缺乏と艱難を忍び——例へば食物にしても實に粗末なものを食べ、着て居るものも、寝る所も

實に粗末極まつたもので我慢して居る。その有様を想ひ起して見ると、國內に居る自分等が贅澤をするなどと云ふことは、實に兵隊さんに對して相濟まぬと云ふ氣持ちが起らざるを得ないのであります。即ちかうした道義心が吾々の心の中に必ず起るのであります。この道義心は人から云はれなくも、政府から注意されなくも心あるものは自ら起るのである。従つて贅澤は憤まねばならぬと云ふ氣が起り、これを日常生活の上に既に現はしつゝある人々が澤山にあると思ひます。がしかし、世の中はさうした人ばかりでもないかも知れぬ。そこでこの贅澤を憤むと云ふことは尙一般に心掛ける必要のあることを強調しなければならぬが、これについて三つの方面に分けて申述べたいと思ひます。

その第一方面は、たとひ、収入の多くない人でも戰爭中は戰爭前よりも

氣を付けて贅澤なことはとにかく控へ目にするに云ふ態度に出られることが必要である。この階級の人々はさう贅澤をする餘地もないかも知れないので、殆どその必要がないかも知れぬが、矢張りいくらからでもかうした氣持ちで、遠慮する、控へ目にするに云つた態度に出られることは必要なことであります。第二方面は、上流社會と云ふか——金持ちや収入の澤山ある人々に於ては一段と贅澤を差控へると云ふ態度を執られ、お金があるから使ふと云ふことでなく、特に遠慮をすると云ふ態度を執つて、尙これを一般に對し範を示すと云ふ氣持ちで實踐されることを希望します。贅澤に使用のお金は出来るだけこれを軍費の方へ向けると云ふ考へ方——即ち公債に應募するとか、銀行其他へ預け置くと云つたことを心掛けて戴きたいのであります。その第三方面はこの戰爭のために大に儲かつたり、又収入が

非常に殖へる人々に於ては、特に注意されお金が大に這入るからと云つて贅澤をする、消費を従来より殖やすと云ふことは特に慎まれるやうに願ひたい。詰り戦前の生活より餘り向上擴大しないやうに自制されることを希望するのであります。この人々は戦争と云ふ國家的、國民的の偶然の出來事によつて特別に恵まれた譯であるから——御自分の非常な勤勞の力も勿論大にあります——國家のお蔭も亦多大であることを思ふて、それを贅澤には使はない、これは大體公債に應募する、貯蓄をすると云ふ考へて、公債を買ふか又は銀行其他の預金にすると云ふことを特に實行して戴かねばなりません。

斯くの如く各方面がそれ／＼その分に應じ、程度の差は異なるが氣持は一つに國家のためと云ふ目標の下に一齊に贅澤を慎むと云ふことを致さねば

なりません。これは軍費に充てる資金を豊富に餘して置くこと云ふ經濟的理由ばかりではありません。出征軍人に對する國內の銃後國民の感激の發露にもなり、激勵後援の意味にもなるので、さうした大きな道義的理由もまた多分にあるものと御承知を願ひたいのであります。とにかく、かうした贅澤を慎むと云ふことに於て、我軍費の調達が愈々圓滑に順調に行けるのであります。

右申述べましたところを綜合致しますと、軍費の調達は何んとかやつて行けるのであります。我國の財政が戦争のために行詰つてどうにもならなくなることを断じてありません。世間には軍費のために結局日本銀行の兌換券がだん／＼に増發されて——即ち紙幣増發のために悪性インフレが起るのではないかと言ふことを懸念するものもないではないが、日

本銀行の兌換券發行高は現在既に多少の増加を致して居る、將來尙増加致します。しかし、その増加が急激に且非常な多額であつて、所謂紙幣の洪水と云つたようなことにならない限り——云ひ換れば生産と消費、需要と供給と云つたことが、比較的均勢を得て居り、一般に投機的でなく健全なる取引が増加し、そのため通貨を多く要すると言つた經濟状態を續けて、徐々に兌換券が増加する。即ち資金の散布と回收とが上手に——所謂金融市場操作が相當上手に行はれ、財務當局が能くこれに注意を拂はれて居るならば、悪性インフレを起すと云ふことはないと思ふ。特に戰爭中には、さう云ふことは起らないと思ふ。戰爭が全く済んで軍隊が大部分内地に歸り、社會一般が戰勝氣分に酔ふて贅澤を大にすると云つたやうな時が一番危険であるが、今日苟も國民が緊張し、剛健なる精神を振ひ起し

堅實なる經濟的態度を執つて居るならば、そんなことは起らない。従つて日本銀行兌換券の發行は相當増加致します。又インフレ的の傾きは時々ありませうが、悪性インフレと云ふものは起らぬと信じてよろしいのであります。斯く觀察して参りますと軍費調達の問題は比較的困難なく出来る勿論これには今申す國民が各方面に於ていろんな對應策に協力し之を實行せねばならぬが、それさへ實行すれば財政に破綻を生ずるなど、云ふことは斷じてないのであります。

七、物に對する制限

さて、軍費は右の次第で支障なく出来るとして、次に考へねばならぬ事は、物の問題即ち物資はどうすると云ふ問題であります。お金があつても

物を得られぬ場合がある、大震災の時さうでありました。お金を持つて居つても、物が無い、足りない、買ふことが出来なかつた。これと同じに戦争中物の足りないことを考へねばならぬ。お金の問題も大切だが、この物の問題が寧ろ最も大切ではないかと思ひます。そこで物の問題としては物の消費にいろんな制限が必要になつて來るのであります。戦争のためには必要なる品物——一口に申せば軍需品であります、この軍需品製造のために要する原料品、消耗品は、いくら入用だか分らない。とにかく非常に多くの物を要するのであります。

その中で日本で出来るものと、出来ないものとある。日本で出来ない物出來てもほんの僅かしか出来ない物、即ち輸入品に仰がねばならぬ物については、國民一般にその消費を大に節約せねばならぬ。白金、ゴム、皮革

の如き日本で殆んど生産しないからこの部類に屬するのであります。日本で出來ても尙足りないで、その足りない丈を外國品に仰いで居るような物は、軍需品に先づ使つて、その餘裕を國民一般が消費してよいと云ふことになるのであるから、いろんな状態を見た上で、その度に應じて消費をそれ／＼制限しなければならぬ。鐵、石油、銅、鉛、木材等々の如きそれこれらはどうしても消費を制限しなければならぬ。鐵の如き銅の如き建築等に於て既に制限令が發せられて居ります。又輸入品中で軍需品に直接の關係はないが、輸入品は外國へその代金として正貨即ち金を以て拂はねばならぬ性質のものであるから、國民一般がその生活に於て消費する品物について、外國品を使はないで國産品を使ふやうにすることが必要になつて來る、ところで國産品の内でも、その原料が外國産であればそれだけ外國

品を使ふことになるのであるから、さう云ふ國産品も成るだけ使はないでそれに代る純日本品を使ふやうにすることが必要であります。詰りそれだけ我國の輸入力を増加させて、軍に必要な外國品を多く輸入することが出来、軍需品を豊富にすることが出来るからであります。故に國民一般は純國産品即ち外國品の交つて居らない純日本品を使ふやうにし、それで間に合はぬものは成るべく外國品を多く使はないで製造した國産品を使ふやうにするのであります。例へば毛織物の如き外國品は使はぬやうに、又國産の毛織物でも外國品である羊毛のみで織つたのでなく、ステープル・ファイバーや、絹や人絹を混ぜて織つたものを代りに使うとか、木綿物も大體同様で、棉花は輸入品でありますから、手拭でもタオルでも出来れば使はないやうにと云ふことになるのであります。しかしこれらは日常生活の

必需品で使はないと云ふ譯にはいかぬ。そこで木綿物は適宜出来るだけの節約法を講ずるのであります。

斯の如くに物の消費についてそれ／＼制限する必要が起つて來るのでだん／＼それが實施されますが、お金を使ふ制限と、物を使ふ制限とは同じやうなものではあるが、物が足りないとなると、お金よりも物が大切になるので、今度の戰爭に於て物の内で大事にせねばならぬ品が澤山ある。お金の節約と物の節約とは目的なり狙ひ所なりが同じなときと、異るときとがあるのでありますから、お金を節約して貯蓄すると云ふこと、品物を使ふ節約したり、又は代りの品を使ふと云ふことは、見方を違へて考へるやうに致さねばなりません。話しが消費節約と云ふことに這入つて來ましたが今度の戰爭について、國民は一般に消費節約を心掛け、それ相當の實行を

致さねばなりません。が、これについては國民一般が、どう云ふ理由で、どう云ふ品物を、どれだけ使はないやうにするのか——又代りの品としてどう言ふ品なら使つてよいのか、と云つたことを能く承知した上で、この消費節約を實行政致さねばならぬと思ひます、それは消費節約と云ふことは大に必要なことではあります、たゞ漫然と節約すると云ふことになりますと、その結果は目的を完全に達せられないで、却つて一方に恐ろしいことを生ずる危険があるのであります。品物々々についてそれ／＼理由があつて節約を必要とするのであるのに、それらが能くわからずして、消費節約、消費節約と云つて、何んでもかでも節約すると云ふことになる、國家に對する御奉公だと思つて、折角節約したのに國家がこれを節約してほしと思つた物は豫期したほどの節約にならず、即ち目的が完全に達せられ

ずして、一方には節約しなくてもよいものが節約されて悪結果を來し餘計なことをしたと云ふことにならぬとも限りませぬ。

八、盲目的消費節約を排す

盲目的の消費節約は國民の日常生活に壓迫を與へ、中には榮養上、健康上等に悪影響を及ぼし、國民の元氣及び活動力を阻碍する如きことが起らぬとも限らぬ。又その物品を製造販賣するものに對しては、その生業に打撃を與へ、不況を招來し、生計の困難を醸し、萎靡沈滞の風を助長し——特に中小工業者中に困難を生ずる者が多くなり、尙農村にまで不況を及ぼす結果を來すことにならんとも限りませぬ。かう云ふ結果になつては角を矯めんとして牛を殺すと云つたことになるので不景氣の招來、困窮者續

出とでもなつたら、國策の要望する所とは全く反したとんでもないことになりません。故に節約のことは細心の注意を以て望まねばなりません。一體今度の戦争のため、物の節約を國民一般がやらねばならぬと云ふ、その大きな理由はどこにあるか、これを能く知つて居らねばなりません。即ち物を節約せねばならぬ大きな理由は二つあります。第一はその品物が戦争をするため直接間接に絶対必要で、しかもその供給がいくらでもあると云ふ品物でない、だから、これを節約して軍用の方へ向けなければ戦が出来ないと云ふわけの品物で、鐵、銅、石油、鉛、錫、ニッケルと云つた金屬類や、石炭の如きものであります。第二はその品物が輸入品であつて、さうした輸入品が多く輸入され、輸入超過が澤山になると、日本銀行の金準備が外國へ出るやうになり、爲替相場の下落を來し、絶対必

要の軍需關係品を外國から買ふ力が減少し、遂に戦が出来ないと云ふ大變なことになる恐れがあるから、輸入品の内で節約の出来るものは、出来る丈節約して結局輸入超過額を少くして、金準備金が外國へ出ないようになければならぬと云ふ理由に依るのであります。それ故これを一言に詰めて申しますれば、一は軍用物資を豊富に確保すること、一は金——ゴールドを相當額保有すると言ふのが目的であるので、窮極する所、その二つを狙うための消費節約が最も肝要になるのであります。これを能く銘記せねばなりません。消費節約についていろんな品物の節約儉約を唱へられ又實行される方々もありますが、主唱者も實行者も窮極の狙ひ所はこの二つだと云ふことを諒解して戴きたい。消費節約をたい目減法にやると云ふことは餘程考へて貰はねばならぬので、この戦争のため是非必要とする二つの

根本理由に即した節約に大に力を入れることは一段と必要であるが、其他の節約は贅澤に屬するもの、外はそんなに必要がないのであります。

九、「金」保有の問題

さて、物の節約について二つの大きな理由あることを述べましたが、これを煎じ詰めて考へますと、最も必要なことは我國が金即ちゴールドを相當多く持つて居らねばならぬと云ふことになつて來るのであります。なぜかと云ふと何品は使つてはならぬ。何品は制限せよ、と云つて節約を必要とするのは、詰り外國からそれ／＼の物を買はねばその物が足りない、ところが外國からそれを多く買ふと結局金貨を以て拂はねばならぬ。そうするとだん／＼金が減つて來て、遂に金がなくなると云ふことになる。さう

なると買ふとしても買へない、戦争をやるにもやれなくなると云ふことになる、それを最も懸念するからであります。日本の金が減つて金で拂へないと云ふことになる、爲替相場が下ります。今度の事變發生以來爲替は少しも下つて居りませぬ。本年の貿易は七億圓と云ふ未曾有の大輸入超過であります。それは軍需品關係や原料を澤山に買込んだからで、若しこの輸入超過を自然に放任して置けば爲替は暴落するのであります。幸ひ政府は、金を澤山持つて居つたのでそれを外國へ現送し、それやこれやで大體支拂に充てること出来るので、爲替相場をちゃんと維持し得たのであります。これは我國の非常な強みであります。これも金が我國に相當多額にあつたから出來たので、金を相當多額に持つて居ると云ふことは實に強いもの、有難いものであります。世間一部の人は金はそんなに持つて居ら

ぬてもよいと云つて、金を大事にしろと云ふ論を攻撃したり、輕じたりしますが、戦争の時には金は特に大切で、これを相當に持たぬと戦争——特に長期戦争は仲々容易に出来ませぬ。即ち金が減じますと爲替が下り、日本の圓の對外價値を下げます。その結果は輸入物資の國內物價を騰貴せしめ、更に輸入を促進し益々爲替を下げます。物價は益々高くなります。悪性インフレも起らぬとも限らぬ。國民經濟は行詰り、作戦は阻碍されます。夫故金は相當持つて居らねばなりません。普通云ふ所のお金——即ち軍費の内、内地で使ふお金、これは、どうにでもして作れます。——金でなくお札でよいのですから——それこそ印刷機械さへあれば出来るではないかと云ふ無難な極端論も出て来る譯であります。金ゴールドとなるとさうはいかない。我國としては金山を大に採掘して金を掘り出すか、輸出を

更に増加する方法を講ずるか、海外に於ける日本人の事業——船會社の仕事も含みますが、かうした事業で我國人が更に稼いでそれを金で取つて來るか、大體この三つによつて金を保有するのであります。これが相當にうまく増加することにならぬと、それだけ輸入力即ち外國から物を買ふ力が殖へないことになりますので、輸入品の消費節約をする——しかも軍需品の方は節約どころか非常に澤山の輸入品を使うのであるから、勢ひ國民一般の普通輸入品の使用を大に節約しなければならぬと云ふことになつて來るのであります。

そこでかうお話しして來ると、吾々は一つこゝで大に考へなければならぬことが起つて來るのです。それは輸入品の消費節約と云ふことは無論大事だが、一方に金山を大に掘つて金を出すこと、これにうんと資本をかけ勞

働力を澤山入れて、金の産額を殖すことは内地、朝鮮、滿洲等に於て大々的にやることに於て極めて必要になるのであります。政府も奨励金を増加し大にやることになつて居りますが、私は政府が益々奨励金を殖し、特に製煉所の増設などに一工夫をし、民間に於てもこの産金事業にもつと熱を持ちこれに乗り出し、その企業を急速に發展させることが非常に必要だと思ふのであります。又輸出増加についても一段と必要工作を爲し、その増進力をもつと發揮出来るようにすることが極めて大切ではないかと思ひます。又海外に於ける事業發展、これも所によつては積極的にやる良い機會であります。政府も民間も十分力を入れねばならぬと思ふ。右の他まだいろいろありますが、かうした方面に大に積極策を執ることが最も必要だと考へるのであります。

ます。私は新進氣鋭の事業家が産金事業に大に乗り出して戴きたい。乗るかそるか一と勝負やつて貰ひたい、政府も思ひ切り積極的に出て報償的援助を與へられたい。輸出の方面に於ても亦積極的に増進策を講ぜられたい。どうもかうした時局下に於ては事業上、往々にして消極的な沈滞氣分になる恐れがないでもないが、それはよろしくないと思ふ。今度の戦さは一方から見れば我國が一大飛躍を爲す絶好の機會であり、國運の將に大興隆を爲さんとする見透しもあるのであるから、寧ろ積極的に進出するがよいと思ふ。とにかく金を得るための活動を特に大にやると云ふ大方針を樹立してこれに大なる資本と多數の勞働力を注ぐべきだと思ひます。尤もこれらのことによつて金保有が殖へるのは多少時日がかかります。一方軍需品たる輸入品は目前の急務でありますから、直ぐの間に合ひませぬが、長期作

戰の必要上からは十分間に合ふように出來ると思ひます。これによつて近き將來に我經濟力が擴充され、永久的に我産業經濟の發展に拍車をかけることになると思ひます。私は何んとしても一方にかうした金保有の積極的活動を大に進めつゝ、一方に消極的ではあるが國民舉つて消費節約の大眼目を輸入品の節約に置いて金保有の國策に協力することが極めて肝要だと信じます。又之と同時に廢物利用が必要であります。所謂資源を愛護すると云ふことであります。之も物品の經濟に極めて大切であります。斯くして國家の財政、經濟に國民が大きな協力を爲すと云ふことが非常に大切な義務で、その現はれが國民精神總動員となつて國民全體が大に協力せねばならぬと思ひます。

一〇、景氣の變動に備へよ

次に私は國民生活安定のことについて少し申述べますが、戰爭が長期となり、戰時の財政經濟の諸政策が行はれますと、我國民經濟の上には相當大きな變動が起つて來るものと思はねばなりません。戰爭が長くなりますといよ／＼戰爭のため非常な利益を得て富の蓄積大なる者が相當多數に出來ると思ひます。中には新たな成金も相當多數出て參ります。又大利得者、大資産家とは行かぬが中資産者が可なり澤山出來ると思ひます。尤も彼の大正七八年頃の歐洲大戰當時のような大利得者は現はれまいと思ひます。と申すのは今度の特別利得者は仲々の重税を負擔せねばなりません、又その利益も軍國に奉仕するため、さうぼろい儲けと云ふ譯には行きませぬ

が、とにかく相當儲かる者が可なり多數になると思ひます。かうした總て儲かる方面が戰爭中に起る第一層方面であります。かうした方面は無論景氣がよろしく、又このあふりを受けて所謂軍需景氣が出ると云ふことも豫想されるのでありますが、此景氣は少しさきのことでありませう。而して一方に又困つた現象が起ることを豫想されるのであります。それは凡そ戰爭なるものは初期に於て國民の多數が、非常に警戒心を起し、軍事關係以外は何事も控目にするると云ふ傾向が発生致すものであります。そこへ以て來て勤勉貯蓄、消費節約と云つたことが唱へられ、之が實行されると軍需品以外の物品の製造業者や販賣業者は相當打撃を受けまして、數から申しても相當多數の國民がかうした影響により隨分困難な事態に陥るのであります。これを第二層方面と見て置きます。

又一方には従前と變らない方面、即ち別に良くも無いがさう悪くもないと云つた國民もあります。これを第三層方面と見て置きます。大體良い方面と悪い方面と前と變らぬ方面と三つに分けることが出来ます。勞働の方面を見ても一方に失業者になつて困る方面がありますが、一方には人員不足で人をほしがると云ふ方面があつて、ひつぱりこに出遇ふ人々もあります。又収入の殖へる方面、収入の減る方面とあります。斯の如くに今日及今後は經濟的に大に惠まれる人々と惠まれるどころか、却つて困窮すると云ふ人々が出て來るものと思はねばなりません。かうした社會狀勢は戰爭——特に今度の如き大きな戰爭がしかも長期に涉つて繼續する場合に於ては、どうしても避けんとして避くることの出來ない自然の趨勢とも云ふべき現象で誠に已むを得ないことであります。しかも一般の生活費は、大

體物價が騰貴の狀勢にある點からして前より増大するので、收入減の方面の人々は二重の苦痛に出遇うのであります。物價の騰貴が今位の程度に止まつて居ればまだどうか堪へ得られるが、大勢はさういかないので、この上更に物價が騰貴し生活費増嵩が免れないとなると、いよ／＼その困難がひどくなるのであります。即ち第二層第三層方面に於てはさうした影響が一層深刻に感ぜられるのではないかと思はれるのであります。農村方面や、又中小商工業者方面にはかうした困窮に出遇ふ人々が現はれて來るのではないかと豫想されるのであります。

特に物價の騰貴が著大で生活必需品の暴騰を見るが如き事態が発生すると、その困難は一層甚しく多數國民の生活は非常な脅威を受くることになるのであります。特に國民の全體が——各層が一齊に困ると云ふ場合なら

皆が困るのだからと云つて忍耐も致しますが、一方には非常に大きな利得者があり、成金が出ると云ふ實況を眺めては、どうも不平不満の感を抱く者が相當多數あるやうになるのではないかと云ふ懸念もあります。これらのことを思ひますと國民生活安定の問題は決してこれを等閑に附すべきでない。益々以てその對策を十分に攻究し着々これが實行を期せねばなりません。然らばこの生活安定問題は結局何んとか解決が出來て不安なしに行けるかどうか、私はこれに對しては政府が十分に對策を講ぜられ、肯綮に當つた機宜の措置を随時に極めて上手に實施されることが第一、國民も亦各層に於てこれを能く理解し、各その分に應じ立場に依りて勤むべきことを十分に勤められることが第二、これらを能く實行したならば、問題を比較的容易に解決し、別段憂慮する程の不安なくして經過され得るものと信

じます。私は今度の戦争は我國に取りその時機に於て政治的にも國際的にも、軍事的にも誠に良い時に始まつたと思つて居ります。それと共に經濟的にも誠に良いときに始まつたと思ひます。

一一、經濟恐慌に苦んだ經驗

今度の戦争には天祐が澤山ありますが、實に經濟上良い時に始まつたもので之も天祐の一つかと喜んで居るのであります。經濟的に何が良い時機か、これをお話しすると長くなりますので簡単に申しますが、我國は歐洲大戰後の反動的經濟恐慌のために苦められ、續いてまた關東大震災による大打撃を受けて強い經濟恐慌に襲はれ、續いてまた世界的經濟大恐慌のあふりを食つて可なりひどい不景氣に出遇つて困憊致しました。即ち大正九

年より昭和六年に至る十二年間の我經濟史はこれを能く物語つて居るのであります。然るに我國の勝れた智能と不撓不屈の勤勉はこの間の大恐慌に打勝つて更に之を利用して製造に貿易に多大の成果を收め得て——例へば一度墜落した者が再びはい上つたと同じように、我國の各方面には經濟的整理が行はれて生産費の低下と云ふ經濟上の大きな強味が生じ、これによつて堅實なる經濟國家の再建が出来る土臺が築かれ、それから我產業貿易の新發展が出来たのであります。論より證據本年の貿易が七億圓と云ふ實に未曾有の大輸入超過を爲し居るに拘らず、外國より一文の借入を爲さずしてこれを黄金色の金貨を以て支拂ひ、爲替相場を微動だもさせずこれを維持しつゝあると云ふことは、これぞ全く此間に於ける我國の經濟活動が、一方には消極的整理に邁進し、一方には積極的進出に飛躍した結晶

であることを物語つて居るのであります、今更ながら、あの勇猛なる軍人の強さと共に、我經濟人の能くこゝまでやつて來たことを思ひ合せまして總て我國民性の偉大なるに驚嘆せざるを得ないのであります、かうした整理と進出とが經濟上略出來て、國民經濟生活も彼の昭和五六年頃よりは餘程回復して、生活不安の漸く除かれんとした頃で、先づ時機も良い時と申してよいのであります。そこへこの經濟的にも偉大なる國民が、いよく一方に消極的、一方に積極的にあらゆる智能をしほり出して奮闘努力し、しかも國民相互に能く和協し共に理解を深め、政府は十分にその對策を講ずると云ふことを致すならば、國民全體の生活を不安なく過ごせると云ふことは別段さう心配する程のことではないと信じます。私は今日こそ日本古來の我國體——國家組織の一大特徴である大家族主義的國家の理

念を昂揚しその眞價を大に發揮して、隣保相助の大精神を躍動せしむることが極めて必要だと信じます。これぞ國民精神總動員の最も重要な一面ではないかと存じます。

この精神を國民全體が持つてこそ眞の銃後の護りも全ふせられ、如何なる困苦缺乏にも堪ふる大勇猛心も亦起るのであります。私は必ず斯くあるべきものと信じて居ります。斯くの如くにして難問たる國民生活安定問題も憂ふることなく解決せられて行くものと思ひます。政府の對策はいろいろ必要で、經濟政策、社會政策この兩方面より一種獨特の立法及び施設が必要になつて參るのであります、今日は時間の都合上その詳細は申上げませぬ。

さて只今まで申述べた所によつて、今度の戰爭が長引くに於ては、どう

すればよいか、我國民の覺悟すべきことは略その大綱を御諒解下さつたことと思ひます。

一一、實業市民各位に告ぐ

東京に於ける市民諸君——特に商工業に従事さるゝ實業市民は或は工業に或は商業に、それ〴〵持場々々を持つて日夜軍國のため、必要なお仕事に活動されて居る方々であります。この多數の實業市民は、一つには今將に躍動して居るところの我日本國家の經濟人であると云ふことを誇りとし——軍國に於ける重要なる兵站部を背負つて居る一人であることを自覺せられ、又一つには諸君は東京と云ふ帝都の市民として、特に軍國のため御聖慮を惱まさせられて居ります。上御一人の御膝下に在つて、平常御鴻

恩に浴されて居ることを思ひ出だされ、全國民に率先して範を示すの御氣持ちになられ、能く公に奉じ、忠良なる臣子の本分を御盡し下され、皇運を輔翼し奉られんことを切望致すのであります。先きに申上げました如く長期戦争に打ち勝てるかどうかの問題は結局大部分が經濟問題にかゝつて來るのであります。皆さんは經濟人として能くこの重大關係を諒解せられて御活動あらんことを切望致します。今後の我經濟界——我商工業は幾多の波瀾を重ね、浮沈もあり、榮枯盛衰もあります。實業市民中には大に好影響を受けられ幸運に恵まれる方もあります。又時局のため打撃を受け悲運に悩まされる方もあります。何れも能く時局の認識をはつきり持たれ、將來の見透しを能く付けられ、各其持場々々に依つて不撓不屈益々其事業に一段と努力奮闘を爲されんことを望みます。自分が幸運に恵ま

れたとて奢りに長ずることなく、益々堅實に活動を續けて經濟人としての任務を盡されたい。又悲況に悩む人々は決して悲んだり、騒いだりしないで、堅き信念を持つて、靜かに對應策を講じて、所謂捲土重來を策し更生の途を講ぜられたい。

先刻から申します通り、經濟界に變動があつても、政府はこれに必ず對處する方策を立て、さうした困る人々を見殺しには致しません。特に金融の疎通などには相當政府も力を入る筈であります。種々の施設も致して困難な方面にそれ／＼の更生策を行ふことゝ存じますから、決して騒ぐことなく、適當にその道の人々と談合し、どこまでも何んとかなると云ふ信念を以て、たゞ／＼勤勉努力を續けられんことを望みます。戦争を續けます結果は國民に不自由不便を與へることはこれは己むを得ませぬ。國民

も或る程度まで我慢し、忍耐せねばなりません。が、生活生存の問題に對しては十分之を匡救するの途もあるのであります。たゞ何も彼も政府などに頼りかゝると云ふ考へ方はいけません。飽までも自力を以て立て、行くといふ決心は必要であります。それらを能く合せ考へて一段の發奮を以て善處されんことを望みます。特に先刻も申す通り、輸出方向への努力發展と、外國品に代る純日本品の生産販賣の如きは經濟人として大に力を振つて盡すべき所であり、又營業的からも進出すべき好箇の新方面なりと思ひます。特に今度の戦争は連戦連捷、終局は我日本の支那進出が一段と活潑となり、旺盛となつて我國民の活躍の舞臺は更に廣まり、こゝに前途多望なる新時代が現はるゝものと考へるのであります。それこそ一大進展を計るに絶好無二の機會を與へられ居るものとも思はれるのであります。

私は切に實業市民諸君が能くこの實情を知られて愈々奮闘活躍され、この非常時局に際し國家の高等政策に協力され國民精神總動員の線に沿ふて光榮ある國民の本分を御盡し下さることを切に望んで已まない次第であります。

—(了)—

昭和十三年二月五日印刷
 昭和十三年二月十日發行
 長期對戰と
 實業市民の覺悟
 【金拾錢】
 東京市日比谷公園二番地
 市政會館内
 編輯者兼
 坂入福三郎
 東京市淺草區小島町二ノ一五
 印刷者
 南金太郎
 發行所
 東京實業愛市協會
 東京市日比谷公園二番地
 市政會館内

(行印所刷印ミナミ)

終

會協市愛業實京東